

## 経営一転語 90 「単位当たりの原価」という考え方を捨てること

「単位当たりの原価」という考え方をすると、重要な経営判断をするときに間違ってしまう。

「会社全体で変わらない原価」を、単位当たり（製造個数 1 個あたり）に割りかけるので、単位当たり（製造個数 1 個あたり）に割りかけられた金額が、製造数量によって違ってくるからです。

だから、「単位当たり原価」という考え方は、きれいさっぱり捨て去らねばなりません。

「原価がつかめないじゃないか」という心配は無用です。

つかめないのは、「単位当たりの原価」であって、「会社全体の原価」はつかめるのです。

そして、その原価は、設備を増やす、または減らす、人員を増加する、または減らす、というような何らかの変動がない限り、売上高が増減しようが、商品構成が変わろうが、そんなことに関係なく、常に一定です。（だから固定費と言います。）

原価が変わらないのですから、利益を増大させるためには、収益（売上）を増やせばよいのです。